令和８年度 学校評価自己評価表 【中間】

【学校教育目標】 ふるさと作木を愛し、新しい時代をたくましく生き抜く児童の育成 ―元気 本気で 最後まで―

三次市立作木小学校

ふるさとに学び たくましく生きる 子どもの育成 ― 元気 本気で 最後まで ―

中期経営目標	短期経営目標	目標実現のための方策	評価指標	目標値(%)	達成値(%)	達成度(%)	評価	自己評価	関係者評価	ご意見	改善策
確かな学力の定着	主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	算数科における授業展開の創意工夫 ・リーダーとフォロワーの活用 ・対話の場の設定	・「主体的な学び」「協働的な学び」の視点で児童アンケートを行った肯定的回答の割合	80	97.9	122	5	今年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導―算数科における授業づくりを通して―」に向けて全教職員で視点を絞った校内研修を行い、方向性や取組内容を統一した。児童も主体的な学びを継続している自覚があり、学習リーダーを中心に対話を通して主体的・協働的に学ぶ授業を創意工夫している。この取組を継続することで確かな学力の定着につなげていきたい。	A	・共通認識をもって授業に取り組まれていることが成果につながっている。 ・児童の学習意欲や「頑張っている」という意識が結果につながることを願っている。 ・複式授業の改善が進んでいる様子が見られる。より深い理解につながるように工夫してほしい。	・上半期同様、全教職員で意識統一を図りながら少人数及び複式授業の創意工夫に取り組んでいき、児童が学習リーダーを中心に対話を通して主体的・協働的に学んでいくことができる自立した学習集団をめざしていく。また、市教委指導主事に今後の取組みや研究の方向性について指導を受け取り組んでいくことで「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善」を図っていく。
	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書タイムの充実 ・常清タイム、ドリルタイムの充実	・単元末テスト（国語科・算数科「知識・技能」７０点以上の児童の割合） 【上半期】１学期のテストで評価 【下半期】２学期のテストで評価	70	国語科 71.4 算数科 82.1	109	5	70点以上の児童の割合は、国語71.4%、算数82.1%だった。目標値は達成しているが、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を今後も図り、70%に到達していない児童の割合を少なくしたい。後期もくり返し学習（学び直し）や読書活動、自主学習の継続を中心に取り組みを進めたい。	A	・中学校で個に応じた学習を通して、学力向上を目指している。 ・引き続き、課題の大きい児童への取り組みをお願いする。自主学習はまずは学ぶことが楽しいと思えることが大切だと思う。 ・目標値に到達していない児童の基礎的学力が向上するよう取組を進めてほしい。 ・友達の頑張りや良さを認め合うことができず悪口を言う児童の姿が気になっている。お互いを認め合う項目については課題があるように感じる。 ・延びる児童をさらに伸ばしていくこと、学力的にしんどい児童の底上げなど、個に応じた指導が必要です。	・下半期では、児童にとって分かる授業の創造に努めるとともに、学び直しをテーマに、タブレットドリルや読書活動、音読、自主学習などを継続することで「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着」に生かしていく。
豊かで健やかな心身の育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・児童アンケート、i-checkにおける「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	78.5	98.1	4	作木中との合同レクや合同運動会を通して、異学年と交流、協力する機会をもつことができた。また、「三次市でいちばん○○な小学校」をキーワードとして、大きな行事の前には、児童会やクラス等で、ねらいを提示したり児童それぞれの目標をもたせたりすることで、学校全体や児童一人ひとりのやる気が高まっている。	A	・自己肯定感や思いを伝えることが中学校と共通の課題となっている。 ・授業や行事で身に着けた力が日常生活で生かされるようになるとよい。アンケートで否定的な回答をした児童に寄り添う指導を期待する。 ・アンケートに否定的回答をした児童について課題解決に向けて取組を進め、みんなが自信が持てるよう互いに励ましながら学校生活を送ることを期待する。	・学校生活において、児童が自己肯定感や自己有用感をもって過ごすことができるように、学習発表会や校内マラソン大会など学校行事に向けた練習の期間には、児童同士がメッセージを伝え合うことができる掲示コーナーを作成し、「頑張ってやりきる」という思いをみんなで共有できるようにする。
	基礎体力の向上	・体育科授業の工夫改善（サーキットを取り入れる） ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テストの結果AB率	60	58	97	4	外遊び（雨の時は体育館）については、児童会を中心に全校遊びを企画したり、学級で担任が指導したりした結果、しっかり遊ぶことができた。 行間体育については、体育朝会へ移行し、1学期は運動会に向けての運動や体力つくり運動（体幹トレーニング）に取り組むことができた。	A	・心身ともに健康であることはとても大切である。マラソン大会を実施されるなど、体力向上に向けて工夫もされておられる。継続的な取り組みをお願いする。 ・小学校、中学校ともに課題になっている。楽しんで運動できる環境を整えている。	・２学期の体育朝会・体育の授業に、課題の大きい項目の力を向上させるサーキットトレーニングを取り入れる。 ・マラソン大会に向けて、体育科の授業で目標をもって走ったり、走ることの楽しさが味わえるような内容を取り入れたりして、持久力を高める。
		スタディウィークカードを使った生活リズムの改善（小中連携・家庭啓発）	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合 ・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	65 65	92 92	4	生活チェックシートの活用により、児童自身が時間を意識して行動するという目標をもって生活でき、生活リズムの改善につながった。 各家庭においてメディア使用のルールを設けることにより、メディアの長時間使用を防ぐことができている。	A	・家庭の協力が必須となっているので中学校と協力して啓発していただきたい。 ・メディア使用ルールを設けて、家族で守ることが大切。	・スタディウィークや生活実態アンケートを定期的に実施することで実態を把握して職員に周知し、早期の課題発見や保健指導、学級指導に活かす。 ・保健だよりやPTA全体会等で結果を周知することで、家庭でのルール作りをよびかける。
愛され信頼される地域とともにある学校	信頼される学校運営の推進	情報発信の実施回数 保護者アンケートにおける信頼度 計画に対する業務達成率	・週一回以上のHP更新 ・保護者アンケート「学校は情報発信を積極的に行っている」	95	100	105	5	学校だより、各種便り、HP等を活用して学校の方針や児童の活動を発信し、保護者アンケートで100%の評価を得るなど、学校への理解と信頼につなげることができた。 一方、HPの更新頻度に課題が残ったため、今後は計画的な更新体制を整え、保護者・地域への情報発信をさらに充実させる。	A	・日々の取組の成果があらわれている。 ・タイムリーな発信がよいと思う。 ・作木小newsを拝見している。写真だけでなく、説明の文も詳しくて様子がよくわかる。	・引き続き、タイムリーな発信になるように、ホームページの更新を行っていく。また、いろいろな場面でホームページの存在の周知を行い、保護者に閲覧いただき、本校教育の取組についてご理解いただけるようにする。
	地域とともにある教育活動の充実	地域参観日や交流活動の充実 児童が地域とかかわる体験活動の充実	・児童アンケート「地域のことを学ぶことが楽しい」 ・地域活用授業全学年で２回以上	90	96.9	107	5	各学年で地域の人・もの・ことを生かした学習や体験活動を行い、児童アンケートでも96.9%が「地域のことを学ぶことが楽しい」と回答するなど、地域への関心や愛着を高めることができた。一方、地域のよさを知るだけでなく、地域の課題を自分事として捉え、主体的に調べたり解決に向けて考えたりする力の育成に課題が残った。	A	・挨拶をしないなど、学んでいることが生かされているのか、気になる。 ・コアカリキュラムにおいて児童が主体的に探究的な学びになるように工夫されている。	・学校で学んだことを、地域社会で十分に実践できていないことが課題である。地域は「公」の場であることを踏まえ、そこでどのような姿勢や行動が望ましいのかを考える機会を設ける。その上で、地域の行事への参加や日々の挨拶など、学校で学んだことを地域で実践できるようにする。
	持続可能な業務体制の確立	・校務の精選と業務分担の見直し ・ICT・DXの活用による業務効率化	・時間外勤務時間月45時間以下達成職員 ・会議時間１時間以内達成率	90	94	104	5	業務の精選やICT・DXの活用、会議時間の短縮等に取り組み、時間外在校時間の縮減や情報共有の効率化を進めることができ、2項目の実績平均94%と目標値を上回った。一方、校務の量や進め方に負担を感じる職員もおり、子供と向き合う時間の確保にも課題が残ったため、業務のさらなる精選・分担の見直しやICT活用を進め、効率的な業務体制の確立を図る。	A	・時間外在校時間45時間以上の職員がおられないのは素晴らしい。 ・児童にとってプラスになるように業務改善を進めてほしい。若い先生方が、「教材研究が楽しい、授業が楽しい」と思えるようチームで取組を進めてほしい。 ・教職員皆さんの日々の取組には頭が下がる、心身ともに健康で働き続けられるよう取組を進めてほしい。 ・教育の質の向上と業務改善の両立をどう図っていくかが大切ですね。	・引き続きDX化を推進し、業務の効率化や時間短縮につながる取組を進める。また、会議の在り方を見直し、会議時間の削減に向けて、より効果的・効率的な取組へと発展させていく。一方で、日頃の授業準備を充実させることや、子どもたちが安心・安全に学校生活を送るための取組も大切である。業務の効率化と教育の質の向上の両面を大切にしながら、取組を進めていきたい。

５ １００%以上 目標を十分達成している。 ４ ８０%～１００%未満 目標を概ね達成している。
３ ６０%～８０%未満 目標をやや下回っている。 ２ ４０%～６０%未満 目標を下回っている。１ ４０%未満

A 自己評価は適正 B 自己評価は適正でない C 判断できない